

## 国立中央図書館の現状と課題

国立中央図書館 国際交流広報チーム長  
李成徳（イ・ソンドク）

### I. はじめに

今年、国立中央図書館にとり意義深い一年です。1945 年の開館から 70 年目に一千万蔵書を達成しました。これは大韓民国初のことであり、世界の国立図書館の中においても 15 番目の成果です。一千万蔵書の達成を契機に、国立中央図書館はデジタルメディアの普及、モバイル化など、急速に発展する情報環境の変化に積極的に対応し、国家知識情報資源をもれなく収集・保存してサービス提供する「国家代表図書館」、国家を代表する図書館としての機能と役割にますますの充実をはかるべく努力しています。

このように意味のある年に日本の代表団をお招きして、「国立中央図書館の所蔵資料のデジタル化と遠隔利用サービスの現状」および「書誌データの作成・提供に関する最新動向」について共に議論できることを嬉しく思います。1997 年から始まった韓日国立図書館業務交流もまた 18 回目を迎え、両図書館の現状と課題を共に悩み、意見を出し合って、両国の図書館の発展の貴重な助力者的な役割を果たしてきており、これからも多くの成果があるものと思います。

本日の基調報告では、国立中央図書館の機能と役割を強化するために推し進めてきた 2014 年の主な活動と、現在も推進中の主な業務を中心に簡単にご報告いたします。

### II. 国立中央図書館の主な活動

#### 1. 国家知識資源の収集体系の強化

##### 1.1 環境変化に対応するための収集体系の整備

国立中央図書館は、デジタル環境の変化に応じて国家文献を網羅的に収集すべく関連規定およびシステムなどの収集体系を整備しました。昨年 8 月にオンライン資料の収集強化

のため、国立中央図書館の職制および事務分掌規則を改正してオン・オフライン資料の収集窓口を一本化し、図書館法施行令と施行規則を改正して納本および収集された図書館資料に対する補償基準および異議申し立て申請手続きなどを用意しました。

公共著作物の開放政策に伴い、政府刊行物については印刷資料とともにデジタルファイルの納本を積極的に推進しています。政府刊行物のデジタルファイル納本の便宜をはかるため、2014年6月に「政府刊行物のデジタルファイル納本システム」を構築し、商業用の電子書籍納本施行に備えて「電子書籍納本システム」機能を実現できるよう準備しており、2015年度に資料統合管理システム（KOLIS）のウェブバージョンを実現する際に反映する計画です。

また、国立中央図書館は、2002年から論点となる主題についての公開用オンラインウェブサイトおよびウェブ資料はオアシス（OASIS、Online Archiving & Searching Internet Sources）を通じて集中的に収集しています。2014年までに、計864,569件（ウェブサイト98,818件、ウェブ資料765,751件）を収集しました。2015年にはウェブサイト50,000件、ウェブ資料100,000件、計15万件を収集する予定です。

## 1.2 資料収集の対象拡大

国立中央図書館は、国家文献の網羅的な収集のために新たな資源分野の収集を強化しています。2014年8月には（社）韓国音盤産業協会との業務協約を通じ、韓国の大衆音楽関連の音源、曲の歌詞、アルバムのジャケット・イメージ、メタデータなど、70万件的寄贈を受け、音楽関連資料の体系的な収集・保存・利用のための国家文献として拡充しました。2015年3月には（株）SBSと放送映像資料の寄贈と保存に関する業務協定を締結し、放送映像ビデオテープ29万点余とデジタルファイル12万点余も年内に寄贈を通じて収集する計画です。

また、2014年10月には韓国近代文学資料についての体系的な収集・保存のために「近代文学情報センター」を設置し、近代文学資料の収集を進めています。出版年代が古くなって毀損および消滅する可能性の高い韓国近代文学関連資料の発掘収集を通じて国家文献を拡充し、わが国の文学遺産を後世に伝承すべく、李人植（イ・インジク）<sup>1</sup>の『귀의 성（鬼の声）』や蔡萬植（チェ・マンシク）<sup>2</sup>の肉筆原稿など、関連資料900冊余を収集しました。滅失の傾向にある韓国近代文学資料を体系的に収集・保存するため、当館は引き続き努力して

---

<sup>1</sup> 訳注：李人植（1862年7月27日 - 1916年11月1日）は朝鮮の小説家、言論人。号は菊初。朝鮮における新小説の第一人者。著作『血の涙』は朝鮮近代文学史の幕開けとも言われる。

<sup>2</sup> 訳注：蔡萬植（1902年7月21日 - 1950年6月11日）は朝鮮の小説家。号は采翁、白菱。自由主義、理想主義を求めた蔡の作品は韓国文学に輝く大きな星であり、代表作『濁流』は1930年代の社会相を集約した傑作とされる。

参ります。

### 1.3 デジタルコンテンツの拡充および加工

国立中央図書館は、国家文献の永久保存と後世への伝承、便利なオンラインサービスの提供を目的とし、継続的に所蔵資料をデジタル化しています。1995年に開始し、2014年末を基準に貴重本・古書、楽譜資料など、456,116冊、127,159,574ページをデジタル原文イメージデータベースとして構築しました。このうち、著作権の期限切れ、利用が許可された15万冊余はいつでもどこでも利用できるようにインターネットでサービスし、著作権が保護されている30万冊余は、国内外の協約機関である1,745館に提供することにより利用者の情報へのアクセスを支援し、国家知識情報の創造資源化に貢献しています。

2014年7月からはデジタル化を加速させ、資料保存とオンラインサービスのニーズに対してより迅速に対応するため、デジタル図書館に高性能ロボットスキャナと光学式文字認識処理（OCR、Optical Character Recognition）ソフトウェアを導入して本文テキスト検索機能を実現するための基盤を整え、資料のデジタル化に向けて専門能力強化のための努力を拡大しています。2015年には近現代文学資料を中心に、前年比で4倍に相当する4万冊の資料のデジタル化を進めています。

2015年3月には、国立中央図書館のホームページ（<http://www.nl.go.kr>）をディブライリーポータル（<http://www.dibrary.net>）と統合改編しました。新しいホームページにデジタルコレクションのウェブサイトを改編して「デジタル書庫」、「本・人・世の中」、「ウェブ情報源」、「世界の図書館」に構成し、所蔵資料やウェブ情報源を活用したデジタルキュレーションサービスを提供しています。「デジタル書庫」は所蔵原文をもとに価値のあるデジタル資料をキュレーションし、雑誌の創刊号、ハングル版のタクチ本小説<sup>3</sup>、韓国の偉大な人物など8つのテーマのデジタルコレクションを提供しています。2015年度には「韓国の主要な経済政策」、「1945年以前の韓国関連外国語資料」など、3つの新規テーマを追加で構築する予定です。膨大な情報の洪水の中で、テーマ別に精製されたデジタルコンテンツを閲覧できるデジタルコレクションサービスは、利用者にとって有用なデジタル情報を提供する知識の窓口としての役割を担うことになるでしょう。

## 2. 書誌情報の標準化と情報サービスの向上

### 2.1 国家標準を主導する書誌情報標準化の強化

<sup>3</sup> 訳注：1910～1970年頃までに発行された文庫本に近いサイズの小説本。京板小説ともいう。

参考：[http://blogs.yahoo.co.jp/yonken\\_1854/1463346.html](http://blogs.yahoo.co.jp/yonken_1854/1463346.html)

2014年に国家書誌標準化に向け、国際目録動向などを反映した「韓国文献自動化目録フォーマット (KORMARC) — 統合書誌用 KS (韓国産業規格)」を改訂し、ウェブバージョンでサービスしています。また、214件の件名を新規に追加し、すでに付与された3,000件余の件名を再整備し、「件名標目表業務指針 (案)」を作成して業務に活用しています。

2014年から団体名につく典拠データの構築を開始し、現在までに個人名を含む典拠データは220,000件余が構築されました。「韓国文献自動化目録フォーマット—典拠コントロール用改訂 (案)」を作成して典拠データ標準化の基盤を用意し、今年は改訂 (案) に対する意見を取り入れ、1999年に制定された典拠コントロール用 KS の改訂も推進する計画です。国際標準名称識別子 (ISNI、International Standard Name Identifier) への加入に向け、ワークショップ開催および関係機関コンソーシアム構成などの業務を推し進め、RDAを翻訳してRDA—ハングル版を用意しました。また、当館所蔵の文献資料を対象に、利用者志向のFRBRモデルを試験的に構築しました。

2014年は計276,200件の一般図書資料がMARC基盤の書誌情報として構築され、電子書籍、オーディオブック、音楽、映像、イメージ、学位論文、政府刊行物などのオンライン資料のメタデータ計33,485件がMODS基盤で作成されました。

## 2.2 記事索引・目次情報の構築による研究支援機能の充実

国立中央図書館が所蔵している逐次刊行物のうち、学術的な価値の高い資料を対象に記事索引と目次情報のDBを構築・提供しています。一般雑誌および学術誌への情報アクセスポイントの拡大を通じて関連研究者の学術研究に活用されています。現在までの記事索引DBは930,423件、逐次刊行物の目次情報DBは767,412件が構築・提供されています。

## 2.3 主題別の書誌構築を通じた学術・研究情報サービスの支援強化

利用者開拓を通じて情報サービスのすそ野を広げるため、調査研究目的の利用者への関心分野別カスタマイズ情報サービス (SDI、Selective Dissemination of Information) を開発し、提供しています。現在試験運用中である利用者に関心分野の新着資料通知サービスを拡大する計画であり、研究者を対象にした外国資料の機関貸出を活性化するため広報を強化しています。また、学術・研究情報サービスの専門性強化のために主題別の書誌構築システム (Subject guide) を開発し、利用者へのサービスを準備中です。これは、図書館所蔵資料の書誌だけでなく、専門的な研究情報の主題別コンテンツを構築し、利用者がより簡単に図書館情報資源にアクセスできるようにすることで図書館利用の満足度を高め得るものとして期待されます。

### 3. 政策情報サービスの提供

国立中央図書館は、中央政府の省庁および所属機関、公共機関などが世宗市へ移転する時期に合わせて、初の地方分館である国立世宗図書館を2013年12月12日に開館しました。世宗館は本館で構築した政策情報協力ネットワークを基盤に、行政複合都市の中心部に位置する政策情報に特化した図書館としての役割を果たすため、国内の政府省庁をはじめとして、公共機関、民間研究所の資料室などが所蔵している政策情報を共同で活用する空間（プラットフォーム）を提供しています。このプラットフォームをベースに、世宗館は公務員の政策専門性を高めるための図書館情報サービスを開発してサポートし、公務員の創意的な行政能力を強化するための多様な文化プログラムを企画して運営するなど、政策情報サービス提供のための図書館情報サービスポイントの役割を果たしています。

国立中央図書館は、公務員などの政策に関係する利用者が政策の策定・執行などに必要な政策情報を簡単に取得・利用できるようにするため、省庁間の情報コミュニケーションと共有を基盤とする「政策情報協力ネットワーク」を構築しました。これを通じて収集された政府および公共機関で作成される政策情報と国立中央図書館が収集した情報を基盤に2014年11月から政策情報ポータルサービスを提供しています。

2014年3月からは公務員を対象に、国内外の2万種余の学術誌のうち、利用者が選択した学術誌の新刊目次をメールで提供する「学術誌目次メーリングサービス」を実施しています。さらに、政策分野別主題ガイドを構築し、国内外の政策情報オンライン参考情報源を調査して提供しています。

### 4. 国内出版社との協力

図書館と出版社間のISBN / ISSN / CIP / 納本を一つのシステムの中で便利に利用できるように構築した「書誌情報流通支援システム」の改善のため、利用者（出版社）を対象にモニタリングを実施（1月）してISBN業務マニュアルの改善、ホームページへのFAQ揭示など、利用者の利便性および業務の効率を高めることに努めました。また、ISBN制度への新規加入出版社を対象に納本広報を通じて納本率を高め、新刊資料発刊の調査のためスクラップマスター<sup>4</sup>、リリース業者<sup>5</sup>の活用など、出版・流通業界との協力を通じて新刊資料を適時に収集しました。さらに、11の地域代表図書館との協力を通じて郷土資料241冊を収集しました。6月には国内外の出版社、雑誌社など500社余が参加する「ソウル国際図書

<sup>4</sup> 訳注：オンライン上で新聞の閲覧やスクラップができる有料サイト。国内の主要紙をはじめ、経済紙、地方紙など170紙以上をカバーしている。

参考：<http://scrapmaster.co.kr/main.html>

<sup>5</sup> 訳注：プレスリリース関連業務の代行等を行うPR会社。

展」(6.18～6.22)に参加し、「国立中央図書館広報ブース」の運営を通じて出版社の納本認識向上のための広報活動に取り組みました。

一方、電子書籍が急増している中、ISBN に対する認識不足により印刷本に使用していた ISBN をそのまま電子書籍に用いるなど、間違いが多々ありました。最近、出版・流通業界との継続的な業務協議と電子書籍の ISBN 制度の広報を通じて電子書籍 ISBN 付与は活性化されており、2013 年の 81,845 件に比べて 2014 年には 170%増の 220,899 件に付与しました。また、出版社が書籍出版の際に申請をする出版時図書目録 (Cataloging In Publication=CIP) は、2014 年 12 月の時点で前年比 47%増の計 46,319 件を受け付けました。これを通じて国内で出版される新刊図書の標準目録を全国の公共図書館に提供し、出版社を対象とした CIP ワークショップ (3 月) を開催して CIP 制度に対する認識の向上および参加を促しました。

### III. おわりに

冒頭で述べましたように、国立中央図書館はデジタルメディアの普及、モバイル情報流通環境の変化に対応するため試行錯誤を続けています。これは国立中央図書館だけでなく、全世界の図書館が同じ問題に取り組んでいることでしょう。

最近、国立中央図書館は、情報技術の発展に伴う環境の変化に対応するため、非公開アーカイブシステムを導入し、国内学術誌の電子ジャーナル論文 391 万件を確保し、音源などのデジタルファイル 70 万件を収集するなど、新たな資源分野に対する収集を実施し、オンラインを中心に図書館サービスを再設計しました。

本日の基調報告においても、こうした国立中央図書館の試行錯誤を反映した国家知識資源の収集体系の強化、書誌情報の標準化と情報サービスの向上、政策情報サービス、国内出版社との協力など、主な活動および現状についてご報告いたしました。

今回の第 18 回・韓日業務交流を通じて両機関の共通の関心テーマであるオンラインを通じた遠隔利用サービス、書誌データの作成・提供に関する最新動向について共に議論して共有する貴重な時間となることを希望し、今後もさらに発展的な交流協力が行われることを願っています。ありがとうございました。